

## 欧文の文献

### 単著の本

Broadbent (1998) はこう述べている (Broadbent 1998)。

### 共著の本

- 著者がふたり

Berger and Berger (1972) はこう述べている (Berger and Berger 1972)。

- 著者が3人以上

Isaac et al. (1980) はこう述べている (Isaac et al. 1980)。

### 編書

- 編者がひとり

Douglas (1970) はこう述べている (Douglas 1970)。

- 編者が複数

Rubington and Weinberg (1965) はこう述べている (Rubington and Weinberg 1965)。

### 編書論文

Mayer and Roth (1995) はこう述べている (Mayer and Roth 1995)。

### 雑誌論文

Abbott (1995) はこう述べている (Abbott 1995)。

## 邦文の文献

### 単著の本

小熊 (1995) はこう述べている (小熊 1995)。

## 共著の本

宮島ほか（1985）はこう述べている（宮島ほか 1985）。

## 編書

高坂・厚東（1998）はこう述べている（高坂・厚東 1998）。

## 編書論文

舩橋（1998）はこう述べている（舩橋 1998）。

## 雑誌論文

佐藤（1998）はこう述べている（佐藤 1998）。

## 学位論文

上野（2013）はこう述べている（上野 2013）。

## 翻訳書

Bourdieu（1984=1997）はこう述べている（Bourdieu 1984=1997）。

## 報告書

### 科研費など（report を使用）

那須（2010）はこう述べている（那須 2010）。

### 政府刊行物など（misc を使用）

独立行政法人日本学術振興会（2011）ではこのように触れられている（独立行政法人日本学術振興会 2011）。

## 学会発表

渡辺（2023）はこう述べている（渡辺 2023）。

## ウェブサイト

科学技術振興機構（2023）ではこう言われている（科学技術振興機構 2023）。

## 面倒なケース

### 同一年度で同じ著者の論文が複数ある場合

Denning, Eide, Mumford, Patterson, et al. (2022)、Denning, Eide, Mumford, and Sabey (2022) はこう述べている（Denning, Eide, Mumford, Patterson, et al. 2022; Denning, Eide, Mumford, and Sabey 2022）。

## 引用文献

- Abbott, Andrew, 1995, “Things of Boundaries,” *Social Research*, 62(4): 857–82.
- Berger, Peter L. and Brigitte Berger, 1972, *Sociology: A Biographical Approach*, New York: Basic Books.
- Bourdieu, Pierre, 1984, *Homo academicus*, Paris: MINUIT. (石崎晴己・東松秀雄訳, 1997, 『ホモ・アカデミクス』藤原書店.)
- Broadbent, Jeffrey, 1998, *Environmental Politics in Japan: Networks of Power and Protest*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Denning, Jeffrey T., Eric R. Eide, Kevin J. Mumford, Richard W. Patterson and Merrill Warnick, 2022, “Why Have College Completion Rates Increased?,” *American Economic Journal: Applied Economics*, 14(3): 1–29.
- Denning, Jeffrey T., Eric R. Eide, Kevin J. Mumford and Daniel J. Sabey, 2022, “Decreasing Time to Baccalaureate Degree in the United States,” *Economics of Education Review*, 90.
- 独立行政法人日本学術振興会, 2011, 『人文学・社会科学の国際化について』独立行政法人日本学術振興会.
- Douglas, Jack D. ed., 1970, *Understanding Everyday Life*, Chicago: Aldine.
- 船橋晴俊, 1998, 「環境問題の未来と社会変動——社会の自己破壊性と自己組織性」船橋晴俊・飯島伸子編『講座社会学 12 環境』東京大学出版会, 191–224.
- Isaac, Larry, Elizabeth Mutran and Sheldon Stryker, 1980, “Political Protest Orientations Among Black and White Adults,” *American Sociological Review*, 45(2): 191–213.
- 科学技術振興機構, 2023, 「researchmap へようこそ」, researchmap, (2023 年 12 月 22 日取得, <https://researchmap.jp/public/about>).

- 高坂健次・厚東洋輔編, 1998, 『講座社会学 1 理論と方法』.
- Mayer, Margit and Poland Roth, 1995, “New Social Movements and the Transformation to Post-Fordist Society,” Marcy Darnovsky, Barbara Epstein and Richard Flacks eds., *Cultural Politics and Social Movements*, Philadelphia: Temple University Press, 299–319.
- 宮島喬・梶田孝道・伊藤るり, 1985, 『先進社会のジレンマ』有斐閣.
- 那須壽, 2010, 『知の構造変動に関する理論的・実証的研究』2007～2009 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 研究成果報告書 (19330119), 早稲田大学.
- 小熊英二, 1995, 『単一民族神話の起源——〈日本人〉の自画像の系譜』新曜社.
- Rubington, Earl and Martin Weinberg eds., 1965, *Deviance: The Interactionist Perspective*, New York: Macmillan.
- 佐藤嘉倫, 1998, 「合理的選択理論批判の論理構造とその問題点」『社会学評論』49(2): 188–205.
- 渡辺健太郎, 2023, 「日本の研究者を対象とした無作為抽出調査は可能か」科学技術社会論学会第 22 回年次研究大会発表資料.
- 上野千鶴子, 2013, 「ケアの社会学…当事者主権の福祉社会へ」東京大学博士論文.